



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、2年目を迎えました。

連続講座レポート

第5回 武蔵野の小さなでこぼこをあるく

～水害の理由とわたしたちができること

11/21（土）に、武蔵野の微地形に詳しい平田英二さん（通称「やとじい」）を講師にお招きし、受講生24名、サポーター6名で武蔵野市内のすりばち凹地をあるき、その後、水害に対してできることのアイディアを出し合いました。

「すりばち凹地」は川跡の一部！？

凹地は、その名の通り周囲より低くくぼんでいる土地です。その中でも、出口がなく地図上で見た時にすりばちのような形をしている地形をすりばち凹地と呼んでいます。

武蔵野市は武蔵野台地に位置している比較的平らな土地ですが、市内には今講座で歩いたようなすりばち凹地が16カ所あります（埋め立てや建築で消失したものを含む）。

この凹地の分布を武蔵野台地全体に範囲を広げてみると筋のように線で結ぶことができるとわかりました。かつて存在した川（古多摩川）の水が蛇行する過程で土地を削り、その後川の水がなくなり火山灰が積もったことで、すりばち凹地ができたのではないかと推測されます。

平田英二氏作成の講座資料より

特徴を知り、つきあい方を考える

周囲より低い土地は、降雨時には雨水が集まります。今取り上げた地域も、大雨があると浸水被害を受けることがあります。凹地を意識しながらまちあるきをしてみると、くぼみの最深部へ向かってゆるやかな下り坂になっていることがよくわかりました。また、盛り土をして民家の床を高くしたり、公園に土のう置き場を設置するなど、地域の特性に配慮したまちづくりをしていることが確認できました。また、もっとも低くなっているところには「雨水貯留施設」を設置し浸水対策を行っている場所も見学しました。

後半は、まちあるきや平田さんのお話をふまえて「すりばち凹地のある地域の特徴」を共有し、「凹地とのつきあい方」についてアイディアを出し合いました。

受講生の声より

- すりばち凹地の活用について、様々な意見が聞け、近隣住民として有意義でした。
- 武蔵野市には坂がないと思っていました。普段歩く道もよく見てみたいと思います。

吉祥寺北町の微地形とまちあるきルート地図



作成：平田英二氏

グループディスカッションで出たアイディア 「すりばち凹地とどう付き合う？」

人は住み続け、まちを整備する

- ・短時間のことなので、地形を受け入れ対策する
- ・住居の1階を物置に、地下室に防水板（止水板）を置く
- ・地下の利用はやめる
- ・落ち葉対策をする（毎日の掃除、落ち葉のでる木を植えない）
- ・雨水が地下に浸透しやすくなるようにする
- ・集中している凹地と用水をつなぐ

住居を移転し、自然を受け入れる

- ・溢水対策
- ・釣り堀にする
- ・雨水貯留浸透施設、緑化等に使う
- ・凹地を観光名所に（劇場、子どもの遊び場、マウンテンバイク練習場）
- ・武蔵野の自然を復活させる
- ・食べ物の栽培などに利用・活用する

水コラム no.12: 武蔵野市の主な浸水原因と北町雨水貯留施設の機能

短時間の豪雨で、凹地に雨が集まる

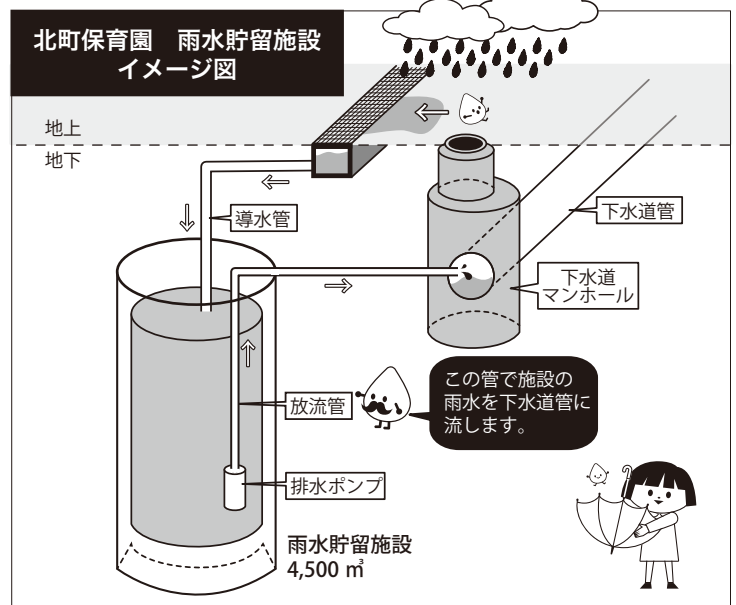
市内では2013(平成25)年8月~2015(平成27)年8月の間に7回の浸水被害が起きており、原因は全て短時間に集中的に降る局地的な大雨です。「すりばち凹地」状の場所には、周囲に降った雨も流れ込んでくるため、雨水の流入量が下水道の処理能力を越えて排水ができなくなり、雨が路上にあふれてしまうことがあります。

台風の場合、総雨量は多くなりますが、浸水するほどの局地的な大雨になることはほとんどなく、そのまま下水道に流れ込みます。

一旦貯めてゆっくり流す、浸透させる

市では、このような浸水被害を防ぐ対策を行っています。そのひとつとして、今年3月には吉祥寺北町の北町保育園園庭の地下に、25mプール24杯分(4,500トン)の「雨水貯留施設」が完成しました。この施設は、路面上にあふれた雨を一時的に貯めて浸水を防ぎ、雨が止んでからポンプによって下水道に流しています。完成後は1度稼動し、約1,800トンの雨を貯めました。

この時は、雨水集水口に雨と共に多くの落ち葉やゴミが流れ込み溜まったことで、雨水の流入量が減り、機能が十分に発揮されませんでした。そのため、すばやく施設に流入する対策を実施しました。



11/28(土) ステップアップ・ワークショップ第2回「川と上水」を開催しました!

ステップアップ・ワークショップは、「水の学校」修了生・受講生を対象に今年度からスタートした参加型講座です。武蔵野市が現在取り組んでいる水に関わる施策について、担当者から直接説明を聞いたり、関連する現場を見た後で意見交換し、武蔵野の水と生活・まちの関係、そしてこれからのあり方を共に考えます。今年度は10/17(土)「水循環・水収支」、11/28(土)「川と上水」、12/19(土)「下水道の施設更新・耐震化」の計3回を予定しています。

一級河川・仙川の様子を現地で確認

第2回のテーマは「川と上水」。修了生・受講生13名に加え、環境部職員など計19名が参加しました。武蔵野市内にある「仙川」「玉川上水」「千川上水」の水辺のうち、この日は一級河川でもある仙川を見学し、今後の水辺づくりについてアイディアを出し合いました。

仙川は、小金井市に端を発し、小金井市、武蔵野市、三鷹市、調布市を貫流して、世田谷区内で野川に注いでいます。市内の流れは桜堤から境南町に至るおよそ3.4kmと、短い距離ではありますが、上流部・中流部・下流部で水辺の様子がそれぞれに異なるため、各ポイントを回りながら、環境部緑のまち推進課の担当職員が整備方針や課題を説明しました。



潤れ川となり、住宅が近接する下流部

「仙川リメイク」計画と課題

市では「仙川水辺環境整備事業(仙川リメイク)」として、1998(平成10)年から、仙川を4つのパートに分けて整備を進めています。このうち、上水南公園から千歳橋の「自然生態系復活ゾーン」についてはほぼ整備が完了し、浄水場で使用した洗砂水等を送水することで川の流れをつくり、自然石を使った護岸には多くの生き物が戻ってきています。見学時も「初めて来たがとても気持ちがいい空間」「散歩にぴったり」という声が聞かれました。

2017(平成29)年度からは「親水ゾーン(千歳橋~みずはけ橋)」の整備を予定し、さらに現在暗きよとなっている「川の道ゾーン」、その下流部の「水辺景観形成ゾーン」へと整備を進めていく計画です。

しかし、中流部から先は、十分な水量がなく降雨時以外は潤れ川になっていたり、住宅が近接して川に近づけないところも多くみられ、よりよい水辺環境の創出のために解決しなければいけない課題が多く残されています。

武蔵野市の水辺のこれからは……?

見学後には、率直かつ活発な意見交換が行われ、自然復活にこだわらず、下流部は「蓋をして遊歩道にしては」「壁に絵を描いて、水がない時でも楽しい空間にしては」という意見や「市民が愛着をもてるよう、細い帯でよいので万葉集に出てくる武蔵野ゆかりの植物を植えてはどうか」といったアイディアも出され、まず「知ってもらうこと」から水辺づくりが始まることを改めて感じる回となりました。